

パソナ系、オンラインサービス向け技術を無償公開

2021/09/03 17:30 日本経済新聞電子版 555文字

パソナグループのビーウィズ（東京・新宿）は、企業のオンラインサービス向け技術を無償公開した。公開した技術を活用することで、サーバーを介さずに複数の相手に対して映像や音声を同時に送受信することができる。オンラインでのサービスを展開する企業の需要を見込む。

ミドルウェアの「映像・音声リアルタイム共有化技術」を無償公開した。ソースコード共有サイト「GitHub（ギットハブ）」で公開した。これまでサーバーを介して1対1でやり取りしていた映像や音声の送受信を、サーバーを介さずに複数の相手と同時にやり取りできるようになる。

技術の活用方法として、例えばオンラインでのパソコン教室などのサービスに組み込むことを想定する。講師が複数の受講者の画面をリアルタイムで同時に確認しながら授業を進行できる。複数のSNS（交流サイト）で同時にライブ配信する技術にも活用できるという。学校教育や観光といった様々な分野への応用を見込む。

新型コロナウイルス下でテレワークや遠隔授業が定着するなど、オンラインでのコミュニケーションが広がっている。同社によると、様々な業界でオンラインによるサービスを事業の主軸に据える動きが出てきているという。技術を無償公開することで、企業が新規サービスの開発にかかるコストや時間を削減できるようにする狙いだ。

許諾番号30083851 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.